

～ 自然の中で 仲間と学ぶ「絆」～

大崎上島町立東野小学校

対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 勤労生産

体験活動場所・宿泊場所 北広島町

【学校紹介】

大崎上島町は、瀬戸内海の中央、芸予諸島に浮かぶ大崎上島にあり、南は愛媛県大三島、岡村島に海上1キロメートルで面し、北は竹原市、安芸津町に海上10キロメートルで面している。大崎上島町は、大崎町、東野町及び木江町が平成15年4月1日に合併し誕生した。

本校の児童は明るく素直であり、与えられた課題に対しては一生懸命取り組むが、さらに高い目標を設定し、課題解決を図ろうという意識はやや低い。また、適切な人間関係づくりを苦手とする児童もあり、協調性にもやや課題がある。

本校では、学校教育目標「自ら伸びる東野っ子 ～やさしく かしこく たくましく～」に向けて、保護者・地域のご支援ご協力をいただきながら、学校・家庭・地域が協力して教育活動に取り組んでいる。

校長名：宗本祥子

児童数（学級数）：64名（7学級）

所在地：豊田郡大崎上島町東野 1845 番地

電話番号：0846-65-2026

URL：<http://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/h-es>



「自ら伸びる東野っ子」

【体験活動のねらい】

長期宿泊体験活動を通じて、学校経営目標である「自立」に必要な知識・技能や生活習慣の見直しを図るとともに、共同生活を通じてコミュニケーション能力を向上させる。

自然に触れる体験を通して、身の回りの自然環境について学び、自然に親しみ、自然を守っていかうとする態度を養う。

体験先の民宿の方との交流を通じて、山での暮らしや産業の実態を学ばせる。

ボランティア活動などの社会奉仕にかかわり、お互いをより理解し合い、豊かな人間関係を築こうとする態度を育てる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月	日本の国土と人々の暮らし	6	社会科	学校	担任
6月	自分たちの食生活（郷土料理）や環境を調べる	5	社会科	学校	担任 栄養教諭
6月	自然愛、郷土愛、奉仕、協力・自主・自立について	3	道徳	学校	担任
7月	宿泊体験活動の計画・準備	5	総合的な学習	学校	担任

7月	宿泊体験活動（3泊4日） ・田舎暮らし体験 ・川魚体験・林業体験 ・伝統芸能体験・奉仕活動	24	学校行事等	北広島町	学校教職員 体験活動講師
9月	体験したことを詩や俳句や絵 で表現する	4	国語科 図画工作科	学校	担任
9月	学んだことをまとめる	6	総合的な学習	学校	担任
11月	体験活動の発表への計画・準備	5	総合的な学習	学校	担任
11月	学習発表会	2	総合的な学習	学校	担任
2月	北広島町の小学校との交流	5	学校行事等	北広島町	地域の人 学校教職員
2月	元気な毎日と食べ物	2	家庭科	学校	担任 栄養教諭

【体験活動の効果を高める事前学習】

体験学習を行う北広島町について資料やインターネットを使って調べることで、児童に体験活動への興味や関心をもたせた。

教職員が現地視察を行い、作成した視覚的資料(プレゼンテーション)で活動場所や内容を確認した。自分たちが体験活動の中で学びたいことを「活動内容」「人」等の分野にわけ、まとめていった。



グループで話し合い
分類したことを発表
していった。



【体験活動の概要】

交流体験

（1）田舎暮らし体験の交流

山県郡北広島町「民宿タニモト」において、農作物の収穫やニンニクの皮むき、畑の耕し、川魚の仕掛け、食事づくりや後片付けなど、非日常的な空間で展開する様々な田舎暮らし体験は、子どもたちにとって初めての経験ばかりであった。新鮮なきゅうりのとげとげの感触を味わったり、トラクターに乗ったり、耕運機を使ったりした作業は忘れられない体験となった。

食事づくりでは、民宿の方のサポートを受けながら自分たちで食事をつくる経験を通して、みんなで協力する大切さ、感謝して食べる喜びを味わうことができた。保護者のアンケートでは、その後も家での食事の手伝いが増えたと記されている。



(2) 林業体験・木工クラフト体験の交流

オークガーデンに行き、間伐体験や木工クラフト体験を行った。間伐体験では、間伐の必要性や方法を森林組合の方から直接お聞きした後に山に入って行くことにより、真剣に取り組むことができた。のこぎりでヒノキを切ったときの香りや木の湿り気を実感することで、今まで知らなかった自然の力を感じることができた。このことは地球環境について考えていくきっかけになった。

木工クラフト体験では、本立て作りにチャレンジした。パーツを組み立てる作業であったが、意外に難しく、友達と協力し合い完成させることができた。



(3) 川魚体験

「大暮養魚場」に行き、アマゴの特性や養殖の方法、育てる上での苦勞をお聞きしたり、実際に「いけす」での作業を見せていただいたりした。その後、アマゴのつかみ取りやアマゴの調理を体験した。また、敷地内に設置されている供養塔への思いや仕事に対する真剣さを学ぶことができた。

児童の振り返り時の感想の中に、「生き物の命を毎日いただいていることに感謝することができた。」という表記があった。今まで何気なく食事をしていたが、自然や生き物の命の大切さについて実感することができた。



奉仕活動

体験活動最終日、お世話になった民宿の清掃を行った。前日、自分たちができる奉仕内容を民宿のお父さんとお母さんに紙に書いて渡し、自分達は何をするかを選んでいただいた。お風呂掃除や長靴洗い、部屋掃除などお世話になった方々への感謝の気持ちを込めて活動することができた。



伝統芸能体験

北広島町の伝統文化である神楽を鑑賞した。鑑賞後には実際に衣装を着させていただく等、自分達の地域と異なる伝統文化に触れることができた。このことは、伝統文化への興味・関心を持ち、自分たちの地域の伝統文化をより好きになるきっかけづくりとなった。



【体験活動の効果を高める事後学習】

国語科「詩と俳句を味わおう」

- ・体験活動で学んだことを，作文や俳句で表現した。

図画工作科「どこかで見たものが」

- ・気に入った俳句と絵を色紙（しきし）に表現した。

総合的な学習の時間

「山・海・島体験学習のまとめをしよう」

- ・体験したことをパンフレットにしたり，学習発表会で地域の方に学んだことを伝えたりした。



パンフレット

自由律俳句で三泊四日の思い出を表現！

学習発表会でアピール

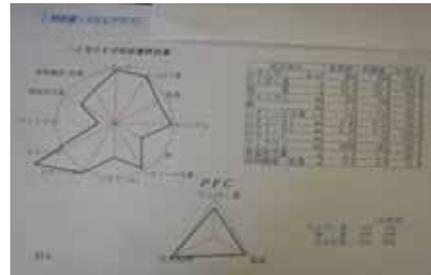


家庭科「元気な毎日と食べ物」

- ・田舎暮らし体験で経験した食事作りは，2学期以降の家庭科での調理実習において能率的に準備や協力し合い調理をすることに生かすことができた。また，朝食のメニューを栄養教諭と連携しながら意欲的に考えた。



児童がメニューを考え、栄養教諭が摂取量・PFCグラフを作成し、児童が栄養のバランスを確認した。



PFCグラフ：食事の三大栄養素，P（たんぱく質），F（脂質），C（炭水化物）のエネルギー比率をあらわしたレーダーチャート

【交流先や施設等との連携】

事前に管理職・担任・養護教諭が体験活動を行う場所や施設を訪問し，受け入れ先の説明を受けた。危険な場所や活動内容を事前に確認したことで，より具体的に充実した計画を立てていくことができた。

【評価の工夫】

「体験活動のしおり」を活用し，「進んで活動」「友達との協力」「自然との関わり」「人との関わり」「歴史や文化を味わうこと」「仕事の達成感」の中から視点を決めて活動ごとの振り返りを行い，次の活動への目標をもたせるようにした。また，その日の終わりには，「自分の思いや意見が言えたか」「友達の思いや意見を聞けたか」「班のきまりを守れたか」「自分で考えて行動できたか」「みんなの幸せのために」行動できたかの5点について自己評価をし，次の日の目標を明確にさせた。

最終日の朝のミーティングにおいて，活動全体の振り返りをさせながら自分の成長を見つめさせた。また今後，この体験活動を生かして，これからの生活の中でどのような行動をしていきたいかについて考えさせた。

【安全面の配慮事項】

活動場所の環境や周辺環境，移動時間の把握，危険場所等の確認を行うために，引率者予定職員で現地の下見を行った。その際，緊急時の受け入れ医療機関について，事前に現地の企画課・観光協会と連携をして情報を集めた。また，宿泊施設の方とも連携を図った。

事前に児童の健康調査を実施し，児童の健康状態や緊急時の保護者への連絡先等を養護教諭が取りまとめ，引率者全員が情報を共有し，指導に当たった。また，児童の実態について，保護者とより細かな連携をとり，配慮事項を明確にし，現地で適切な対応ができるように準備を行った。

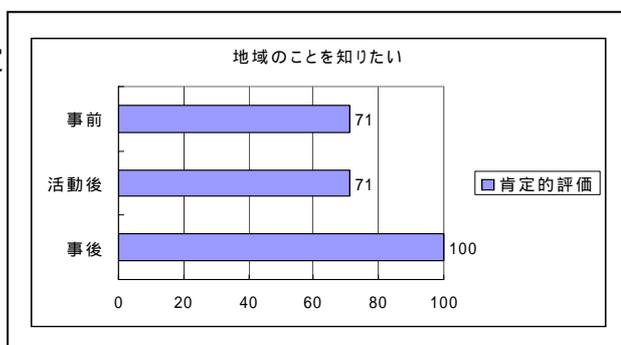
健康観察を行い児童の健康状態を把握しながら活動を行った。特に，十分な水分補給をすることを常に児童に呼び掛け，職員も児童の脱水状況を観察するようにし，健康状態の把握に努めた。

【体験活動の成果と課題】

成果

(1) 郷土愛「自分が暮らす地域のことをもっと知りたい」

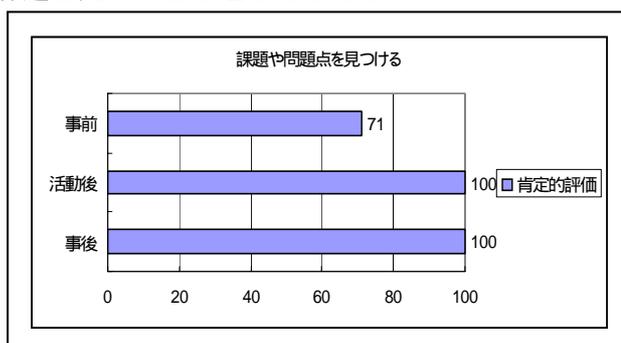
児童への事前・活動後アンケート（6月・7月）では郷土愛に関して71%の児童が肯定的にとらえていたが，事後（11月）は100%になった。このことは，活動後も継続して体験活動のまとめや地域学習をしていくことで，北広島町のよいところを再認識し，同時にわが町のよさに気付くことができたためと考えられる。



(2) 課題を見つけ解決する力「自分で問題点や課題を見つけることができる」

児童への事前アンケート（6月）では課題を見つけ解決する力に関して71%の児童が肯定的にとらえていたが，活動後（7月）事後（11月）は100%になった。

このことは，児童が体験から学んだことを自分の生活と結びつけて考えるように教職員が支援したり，児童の自己肯定感が高まったりすることで，先を見通す力や主体的に考えたり行動したりする力がついたためと考えられる。



課題

(1) 郷土愛「自分が暮らす地域のために何かしたい」

「自分が暮らす地域のことをもっと知りたい」においては児童の意識が向上しているのに対し「自分が暮らす地域のために何かしたい」の意識に課題が見られる。今後，自分が地域で学べることやできることを具体的に行動できるような活動を仕組んでいく必要がある。